

⑨江戸時代に隆盛を極めた目黒不動

2019.10.2

目黒不動尊（泰叡山 瀧泉寺、本尊は不動明王）

808年(大同3年)円仁天台座主第三祖慈覚大師円仁が開かれた関東最古の不動霊場です。

寛永年間には徳川家光公の帰依を受け（鷹居の松の逸話）、堂塔伽藍が復興され、また歴代の将軍が折々に参詣し栄えました。

江戸時代の目黒・大崎

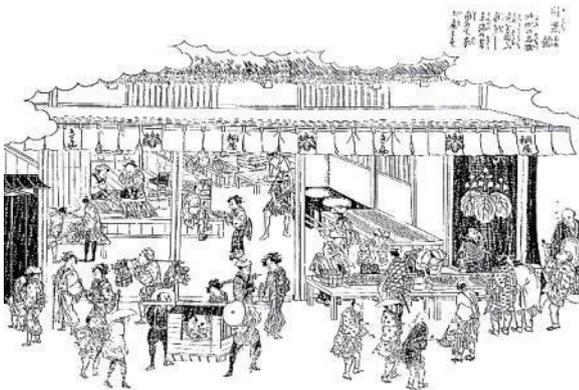
江戸時代の目黒・大崎は江戸の近郊農村で、大名の下屋敷が広がり風光明媚な土地でした。

江戸市中の人々にとって、目黒不動尊の信仰と門前町の賑わう土地でした。目黒不動尊は江戸市中から少し足を延ばせば訪れることの出来る行楽地でした。

桐屋の飴

江戸時代の目黒不動尊の名物といえば、「桐屋の飴」で賑わいました。

池波正太郎の鬼平犯科帳でも、長谷川平蔵の奥方「久栄」の大好きという設定になっています。



仁王門

金剛力士の像を左右に配置した門で、寺院に悪い者が入ってこないように置かれた。

何故か、仁王様の裏側に白い狛犬がいます。

権八と小柴の比翼塚（前頁）

仁王門左手に丸味を帯びた石碑：江戸時代に「後追い心中」として有名な権八と小柴の「比翼塚」です。

比翼塚とは心中した男女のお墓のことです。この事件の主人公・白井権八は鳥取藩士でしたが、藩の侍を斬って江戸へ逃亡し、吉原の女・小柴と親密になり、吉原通いの金欲しさに強盗殺人を重ねます。しかし遂にとらわれ鈴ヶ森で処刑されました。これを聞いた小柴は遊郭から逃げ出し、権八の墓前で命を断つたのです。二人を哀れんだ地元の人々が来世で契りが結ばれるようにと、この比翼塚を建てたといわれています。

水かけ不動

水垢離（みずごり）が難しい一般人でも、このお不動さんが身代わりになって、水に打たれてくださるのです。水垢離は、神仏に祈願する時に冷水を浴びて身を清める行為のこと。

独鋸（とっこ）の滝

独鋸は金剛杵（こんごうじょう）の一種で、鉄製または銅製で両端がとがった短い棒状のような物。高僧がこれを投げると、突き刺さった地面に何か不思議なことが起こるといわれています。目黒不動の境内では刺さった場所から、湧き水が出てきたということです。

前不動堂

目黒不動が隆盛を極めていたころは、将軍家や諸大名などの参拝が度々あり、そうした日には、一般の人は本堂への立ち入りは禁止されました。そのため本堂へ行けない庶民の参拝用に建てられました。江戸中期の建築です。

童謡の里 本居長世（もとおりながよ）

明治 18 年(1885)~昭和 20 年(1945) 60 歳

童謡の作曲で知られた本居長世の業績を称えた歌碑が境内に建っています。大正 9 年（1920）から、目黒不動のそばに居を構えて作曲に専念し、「赤い靴」「七つの子」「十五夜お月さん」「めえめえ児山羊」「汽車ぽっぽ」など名曲を次々と世に出した。

本居宣長の 6 代目（和歌山）

明治 41 年 東京音大主席卒業 同期に山田耕作
教え子には中山晋平や弘田龍太郎らがいる。



碑は「十五夜お月さん」の楽譜

北一輝 (きたいっき) 明治 16 年(1883)昭和 12 年(1937) 国家社会主義者
北一輝の碑(昭和 33 年、文は大川周平)

明治維新の本質は民主主義にあるとし、明治憲法下における天皇制を激しく批判した。

国家体制は基本的人権の尊重、言論の自由の保障、男女平等社会、男女共同政治参加社会などを主張。

しかし内務省は要注意人物として、特高警察の監視対象とした。昭和 11 年の二・二六事件で、民間人にもかかわらず、死刑判決を受け、銃殺刑に処せられました。

(北の著書「日本改造法案大綱」などで、若年将校を扇動したとされた)

戦後、GHQ 主導による日本の戦後改革が行われましたが、その中に北の主張が多く含まれています。



大川周明 明治 19 年(1886)-昭和 32 年(1957) 思想家 (東大哲学科、インド哲学)、法政大学教授、思想家

戦後の東京裁判で唯一民間人として A 級戦犯の容疑で起訴された。裁判中に東条英機の頭を後ろから叩き梅毒による精神障害と診断され裁かれなかった。(開戦前は反戦だったが、インド独立運動の支援や、大東亜共栄圏構想の作成にも協力、著書に米英東亜侵略史などあり連合軍からは、危険な思想人物とみなされていた?)

蛸薬師 (たこやくし) 成就院 (じょうじゅいん)

本尊は薬師如来の立像ですが、これが大変かわっていて、蓮華座を 3 匹の蛸 (たこ) が支える形をしています。その昔、中国留学から帰る途中、慈覚大師が荒波を鎮めるため海に投じた薬師の小像が、その後蛸に乗って漂着した古事にならって造られたもので、蛸薬師の名もそれに由来しています。また、徳川二代将軍・秀忠の側室、お静の方にちなむ「お静地蔵」が祀られています。



五百羅漢寺

羅漢像の作者、松雲元慶（しょううんげんけい）は、元禄時代に京都に生まれ腕のいい仏師でしたが、魂のこもった仏像を彫りたいとの一心から出家しました。大分耶馬溪の羅漢寺で見た五百羅漢に深く感動した元慶は、江戸へ出て、羅漢の制作に没頭します。昼は浄財集めの托鉢に忙しく、ノミをふるうのは夜でした。十数年後ついに 530 余体の羅漢像が完成しました。この功績を知った幕府の援助で本所にお寺が創建されます。その後、お寺は目黒に移転し、今は目黒の羅漢寺として人気を集めています。



葛飾北斎 富嶽三十六景「五百らかん寺さざみ堂」

葛飾北斎 富嶽三十六景「五百らかん寺さざみどう」（江東区大島町にあった）



本堂の釈迦如来及両脇侍像と羅漢像

原爆殉難碑と桜隊

境内の一角にひときわ目立つ自然石の大きな碑が建っています。これが原爆で不慮の死をとげた移動劇団桜隊の俳優たちの霊を慰める原爆殉難碑です。昭和 20 年 8 月 6 日の朝、広島に原爆が落ちました。石碑に刻まれた原爆殉難の碑は、大正・昭和期の活弁家で随筆家の徳川無声が筆をとったものです。裏は歌人の柳原白蓮の自筆の歌が刻まれています。



海福寺（黄檗宗）

万治元年(1658)に寺を開いたのは明の高僧で、インゲン豆にその名をとどめる隠元禅師です。初めは江戸深川にあったが、明治 43 年に水害に遭い、目黒に移ってきました。

朱色の山門は珍しい四脚門で、親柱 2 本の他に 4 本の控え柱があります。宇和島の伊達家から寄贈されたもの、屋根裏に伊達家の紋章が見えます。

又、都指定有形文化財の梵鐘もある。（裾の雲形の柔らかい線は、わが国伝統の様式に中国風の柔らかさを加味している。他にあまり類例のない逸品）

永代橋崩落事故

江戸時代・文化4年（1807年）



永代橋の大惨事

海福寺境内の一角に、永代橋崩落の水死者の霊をなぐさめるため木場の人たちが建立した供養塔です。

文化4年(1807)夏、富岡八幡の祭礼中に隅田川の永代橋が、途中から落ち大惨事となりました。橋の下を将軍家の御座船が通過後、橋止めの解除とともに祭りの見物人が殺到、重みで橋が崩れ、多数の死傷者がでました。

青木昆陽の墓



江戸時代中期の儒学者・青木昆陽は、元禄11年（1698）魚問屋の子として江戸日本橋に生まれ、名奉行・大岡越前の知遇を得て、幕府の図書を管理や収集などを行う書物奉行の要職に就きました。享保の飢饉の惨状を見た昆陽は、多くの農民にさつまいもの栽培方法を教えました。当時さつまいもは甘藷と呼ばれていたため、昆陽は甘藷先生と呼ばれていました。晩年は目黒に住み、生前に作らせておいた墓石が目黒不動尊の墓地にあります



蟠竜寺（ばんりゅうじ）



山手七福神の一つとして有名な「岩屋弁財天」は、本堂横の石の祠の中に鎮座しています。高さ30cmほどの小さな石仏ですが、もう一体は、岩屋の上の弁天堂の中に祀られています。